

## 2019年度 第3四半期決算概要

2020年2月7日  
デンカ株式会社

### 1. 業績

(単位:億円)

	2019年度 第3四半期実績 (4-12月)	2018年度 第3四半期実績 (4-12月)	増 減
売上高	2,887	3,103	△ 216
営業利益	240	248	△ 8
経常利益	227	243	△ 15
親会社株主に帰属する当期純利益	167	184	△ 17

	2019年 通期予想 (4-3月)	2018年 通期実績 (4-3月)
	4,000	4,131
	350	342
	320	328
	240	250

### 2. 総括(前年同期比)

- ・当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、昨年度より5か年の経営計画「Denka Value-Up」の3つの成長ビジョン「スペシャリティの融合体」「持続的成長」「健全な成長」に基づき、2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益性向上に注力しております。
- ・当第3四半期は、球状アルミナ、アセチレンブラック等車両電動化関連製品の販売好調が継続し、デンカ生研株式会社の検査試薬やインフルエンザワクチンの販売も前年を上回りました。その一方で、原材料価格下落に応じたスチレン系製品の販売価格の改定に加え、クロロプレンゴムや半導体関連製品(高機能フィルム・球状溶融シリカファイラー等)の販売数量が減少したことなどから、売上高は216億円減収の2,887億円(前年同期比7.0%減)となりました。そして営業利益は8億円減益の240億円(同3.2%減)、経常利益は227億円(同6.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は167億円(同9.3%減)と、それぞれ減益となりました。
- ・世界経済は、米中貿易摩擦が引き続き重荷となる中、新型肺炎の感染が急拡大しており、先行きの不透明感が一層強まっております。こうした状況下、クロロプレンゴムなどの主力製品の需要回復には時間を要する見通しであり、全体としては低調な状況が続くことが懸念されるものの、一方では、スペシャリティ事業である電子・先端プロダクツやライフィノベーションの業績は伸長しており、当社としては引き続き全社一丸となって今期予想利益の確保に努めていきます。  
そして上掲の「Denka Value-Up」の目標達成のため、その成長戦略をより積極的に進めます。

### 3. 参考数値・前提

(単位:億円)

	2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績	増 減	
投資	設備投資	238	229	9
	M & A 他	27	1	26
	計	265	230	35
減価償却費	166	172	△ 6	
研究開発費	112	114	△ 2	
有利子負債残高	1,268	1,235	33	

	2019年 通期予想	2018年 通期実績
	430	327
		1
	430	328
	230	229
	160	146
	1,200	1,121

	2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績
為替レート [円/\$]	109.1	110.8
国産ナフサ [円/k]	42,600	51,500

	2019年 通期予想	2018年 通期実績
	109.1	110.7
	43,500	49,500

#### 4.セグメント別状況(前年同期比)

- ・エラストマー・機能樹脂部門は、スチレンモノマープラントの非定修年であったことに加え、デンカシンガポール社のスチレン系樹脂のスプレッドは改善しましたが、クロロブレンゴムの販売数量が減少したことなどにより、減益となりました。  
通期でもクロロブレンゴムの販売数量が前年を大きく下回ることから、減益を見込みます。
- ・インフラ・ソーシャルソリューション部門は、製品価格改定による収支改善が進んだことなどにより、第3四半期累計営業利益は黒字化しました。  
第4四半期も価格改定が寄与することなどから、通期でも営業黒字を見込みます。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、球状アルミナ、高純度導電性カーボンブラック等の車両電動化関連製品の販売が伸長したため、生産体制強化に伴い固定費負担が増加したことや、電子部品・半導体関連分野向けの高機能フィルムや球状溶融シリカファイバーの販売が前年同期を下回ったことなどのマイナス要因がありましたが、増益となりました。  
第4四半期も車両電動化関連製品の好調な販売が続くことに加え、半導体関連製品の販売も緩やかな増加に転じる見通しであり、通期でも増益を見込みます。
- ・生活・環境プロダクツ部門は、プラスチック雨どいおよび工業用テープの販売は概ね前年同期並みとなりましたが、合繊かつら用原糸”トヨカロン”や、食品包材用シートおよびその加工品などの販売が前年同期を下回り、減益となりました。  
第4四半期は、工業用テープの販売は引き続き前年を上回るものの、通期でも減益となる見込みです。
- ・ライフイノベーション部門は、デンカ生研株式会社の検査試薬やインフルエンザワクチンの販売が前年を上回ったことにより増益となりました。  
第4四半期も検査試薬の販売が前年を上回る見通しであることから、通期でも増益を見込みます。

(単位:億円)

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績	増 減	2019年 通期予想	2018年 通期実績
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	1,121	1,340	△ 218	1,600	1,792
	営業利益	82	102	△ 21	125	142
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	413	413	△ 1	560	548
	営業利益	4	△ 0	4	10	△ 3
電子・先端 プロダクツ	売上高	499	490	9	710	671
	営業利益	85	84	1	130	118
生活・環境 プロダクツ	売上高	281	300	△ 19	380	390
	営業利益	0	8	△ 8	5	9
ライフ イノベーション	売上高	287	268	19	370	341
	営業利益	63	44	19	70	63
その他 消去差	売上高	285	292	△ 7	380	388
	営業利益	7	10	△ 3	10	13
合 計	売上高	2,887	3,103	△ 216	4,000	4,131
	営業利益	240	248	△ 8	350	342

連結売上高増減	売上高				
	2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績	増 減	販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	1,121	1,340	△ 218	△ 128	△ 90
インフラ・ソーシャルソリューション	413	413	△ 1	13	△ 13
電子・先端プロダクツ	499	490	9	7	3
生活・環境プロダクツ	281	300	△ 19	△ 5	△ 14
ライフイノベーション	287	268	19	△ 4	23
そ の 他	285	292	△ 7	-	△ 7
合 計	2,887	3,103	△ 216	△ 118	△ 98

連結営業利益増減	営業利益					
	2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績	増 減	販売価格差	数量差	コスト差等
エラストマー・機能樹脂	82	102	△ 21	△ 128	△ 48	155
インフラ・ソーシャルソリューション	4	△ 0	4	13	△ 5	△ 4
電子・先端プロダクツ	85	84	1	7	4	△ 10
生活・環境プロダクツ	0	8	△ 8	△ 5	△ 6	4
ライフイノベーション	63	44	19	△ 4	17	7
そ の 他	7	10	△ 3	-	0	△ 3
合 計	240	248	△ 8	△ 118	△ 39	149